

お米と果物とミルクのふしぎ？体験教室

事業代表者：宇都宮大学農学部 教授 居城幸夫
構 成 員：宇都宮大学農学部 教授 長尾慶和
宇都宮大学農学部 准教授 高橋行継
宇都宮大学農学部 准教授 柏寄 勝
宇都宮大学農学部 助 教 福森理加

1. 事業の目的・意義

附属農場の自然の中で、収穫や動物とのふれあい、収穫物の加工、試食などを通じて、自分たちの食を支える生産現場や植物や動物たちの様子を学ぶことにより、豊かな感性や自然や生命を尊ぶ心を育む。

2. 事業の内容

実施内容により安全に実施できる受け入れ可能人数が異なるため、例年通り、お米と果物コースとミルクコースの2つのコースを別々に開催した。お米と果物コースについては、本年度も昨年までと同様に、作物（お米）部門、園芸（果物）部門、機械部門ならびに畜産（ウシ）部門の各専任教員の指導の下で、それぞれの分野の体験実習を行った（詳細は下記参照）。ミルクコースについては、畜産部門に特化した内容で行った（詳細は下記参照）。案内と募集は、宇都宮市内小学校へのダイレクトメールと情報誌への掲載により行った。「ミルクコース」については、2回合計の定員 20 家族を上回る応募があったが、抽選により 20 組を受け入れた。「お米と果物コース」については、定員 30 家族に対して7家族の参加で実施した。安全性やウシの頭数の関係で、ミルクコースで受け入れられる人数に限界があるとはいえ、定員と応募人数のアンバランスが今後の課題として残された。内容の詳細について以下に記す。

お米と果物コース：5月から12月にかけて、約1ヶ月おきに6回開催する。水稻の田植えや収穫、ナシの摘果や収穫、農作業機械体験、乳牛の飼養管理の見学、などを春から秋にかけて季節を追いながら実施した。

●日程と内容：

第1日 平成27年5月23日(土)

- ・オリエンテーション
- ・お米の苗を田植えしよう！（図1）

第2日 平成27年7月4日(土)

- ・お米の苗はりっぱに育っているかな？
- ・りっぱな赤ちゃんナシ・ブドウを見つけよう！（図2）

第3日 平成27年8月29日(土)

- ・機械の力と不思議を体験しよう！（図3）
- ・ナシやブドウを収穫するぞ！（図4）

第4日 平成27年9月19日(土)

- ・さあ、お米の収穫だ！（図5）
- ・お米の収穫に大きな機械が大活躍！

第5日 平成27年10月31日(土)

- ・リンゴはりっぱに育ったかな？
- ・収穫したお米を食べてみよう！（図6）

第6日 平成27年12月5日(土)

- ・うしの暮らしをのぞいてみよう！（図7）
- ・質疑応答コーナー

●場所：宇都宮大学農学部附属農場

●参加者：7家族21名



図1. お米の苗を田植えしよう！



図2. りっぱな赤ちゃんナシ・ブドウを見つけよう



図3. 機械の力と不思議を体験しよう！



図4. ナシやブドウを収穫するぞ！



図5. さあ、お米の収穫だ！



図6. 収穫したお米を食べてみよう！



図7. うしの暮らしをのぞいてみよう！

ミルクコース：6月中の週末毎に2日間のコースを2回開催した。乳牛の給餌・搾乳、ヒツジの毛刈りや身体検査、アイスクリーム加工などを体験を実施した。

●日程と内容：

第1回

第1日 平成27年6月7日（日）

- ・オリエンテーション
- ・うしとミルクの不思議解説
- ・うしの暮らしをのぞいてみよう！
- ・うしとひつじにご飯をあげよう！（図8）
- ・乳しぼりに挑戦！（図9）

第2日 平成27年6月14日（日）

- ・搾りたてミルクでアイスクリームを作ろう！（図10）
- ・ヒツジの毛刈りにチャレンジ！（図11）
- ・動物のからだ、ヒトのからだ（図12）
- ・質疑応答コーナー

●場所：宇都宮大学農学部附属農場

●参加者：11家族29名

第2回

第1日 平成27年6月20日（土）

- ・オリエンテーション
- ・うしとミルクの不思議解説
- ・うしの暮らしをのぞいてみよう！
- ・うしとひつじにご飯をあげよう！
- ・乳しぼりに挑戦！

第2日 平成27年6月27日（土）

- ・搾りたてミルクでアイスクリームを作ろう！
- ・ヒツジの毛刈りにチャレンジ！
- ・動物のからだ、ヒトのからだ
- ・質疑応答コーナー

●場所：宇都宮大学農学部附属農場

●参加者：9家族30名



図 8. うしにご飯をあげよう！



図 11. 動物のからだ、ヒトのからだ



図 9. 乳しぼりに挑戦！



図 10. 搾りたてミルクでアイスクリームを作ろう！



図 11. ヒツジの毛刈りにチャレンジ！

3. 事業の成果

平成 28 年度も、地域の多くの子供たちとその保護者に体験実習を提供し、自分たちの「食」と「農業」の結びつきや、「食」や「農業」を支える「生命」や「科学」について、幅広く理解を深めることができた。最終日のアンケートにおいては、参加した保護者から「食卓を囲んで体験実習の事が話題になり、食事をこれまでよりもありがたく味わえるようになった」、「生命に感謝する気持ちが生まれた」などの声が多数寄せられた。これらの体験が、必ずや子供たちの豊かな感受性を育くみ、知性溢れる人生を過ごすための一助となるであろうことを確信している。

4. 今後の展望

長年の実施により、地域からの期待が大きく、平成 28 年度も継続して実施する予定である。